

# 市 研 特別活動 速報

## 【低学年部会】

発行日 平成28年10月12日

横浜市立小学校特別活動研究会

会 長 高橋 宏明

研究テーマ 明るい未来を切り拓く子どもを育てる学級活動の在り方  
～集団活動を通して、子どもの自尊感情を高めるには～

活 動 名 「ひこうき とばすぞ！ゴーゴーゴー！パーティー」 学級活動(1)

### ○活動のねらい

「ひこうき とばすぞ！ゴーゴーゴー！パーティー」の活動を通して、自分たちがやりたいことを十分に出し合って、みんなで楽しい学級生活をつくっていかうとする態度を育てる。

### ○テーマにせまるための具体的な手立て

- ・学級目標を生かしたストーリー性のある集会活動にすることで、集会に対する「楽しそう」「やりたい」という思いや「やってみよう」というアイデアをもつことができるようにする。
- ・役割を果たしたことが分かる掲示物を活用することで、一人ひとりの「できた」と、みんなで集会をつくっているということが分かるようにする。
- ・集会活動で行った役割や振り返りカードをファイルに貯めていくことで、頑張ったことに気付き、次の活動への意欲が高まるようにする。

### ○研究討議・講評から

- ・活動のきっかけに、集会への思いをもつことができるように、学級目標「ひこうき」の世界観をつくったことは、子どもたちが想像を膨らませ、集会のねらいに合ったアイデアを出せるようにする有効な手立てであった。
- ・学級活動の一年間の流れをストーリー性のあるものに設定したり、集会活動全体や役割ごとの活動のゴールが分かるようにしたりすることは、1年生にとっても活動の流れを実感し、わくわくする活動を考える手立てになる。
- ・みんなでつくり上げる集会活動にするために、自分たちでプログラムや集会活動の内容を工夫できることを知ることと、「やりたいことができた」という嬉しさを味わえるようにすることは、今後の集会活動への意欲につながっていく。
- ・教師の支援のもと、活動計画表をスモールステップで設定し、「誰が」「何をするのか」を明確にしたことは、一人ひとりが役割を果たすことができる手立てとして、有効であった。
- ・クラスみんなの活動経過が可視化された掲示物を用いたことは、「一人ひとりの頑張り」と「みんなでできた」ということが分かり、互いに声をかけ合い、助け合うことにつながっている。また、「みんなが役割を終えたら集会ができる」というゴールが、分かりやすく可視化されていたのがよかった。
- ・子どもたち自身が成長を感じるためには、活動のねらいや評価規準に対する振り返りの視点を明確にしたり、ねらいに沿って教師が価値付けたりすることが大切である。
- ・活動を計画するときには、評価規準と照らし合わせながら「どんな支援をするのか」「どんな子どもの姿を想定しているのか」「どんな振り返りを想定しているのか」を明確にもつことが大切である。
- ・毎回、「計画・準備・実践・振り返り」までの一連の流れ(学習過程)に沿って活動をつくり、その過程で教師が子どもをみとったり、子どもが振り返ったりするとよい。